

もりばたけ 秀治

この町を、
守る。
SUPPORT OUR TOWN

《質問項目》

いごも文教関係

・『里親支援センター』の設置について

・『SNS 24時間こども・若者相談窓口』の設置について

・『中高生の居場所づくり』事業について

建設関係

・高陽地区へのスマートインターチェンジ設置について

経済観光環境関係

・メタバースを活用した企業PR促進事業について

令和8年 予算特別委員会

令和8年2月26日～3月25日まで、1か月間にわたり開催された予算特別委員会で、私は次の5つの主要事業について質問をしました。

広島バス29号線（矢賀経由）の 運行形態が変わりました。

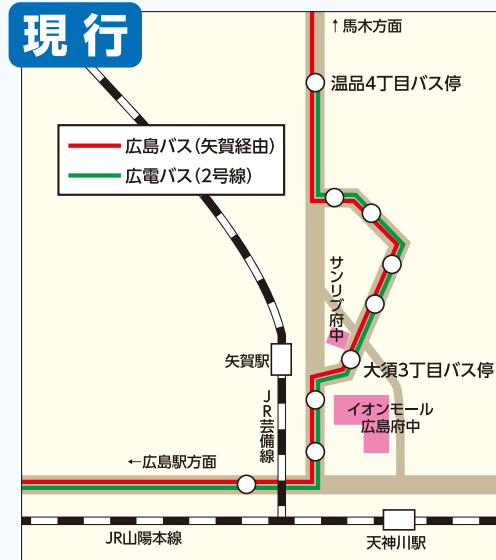
広島バス29号線（矢賀経由）は、温品四丁目～広島バスセンター間で、広電バスと路線が重複していました。
これまで2カ年をかけて実証運行を実施した結果、利便性・持続性の向上のため、運行形態を見直すこととなりました。



【どう変わった?】

7時台～8時台、 16時台～18時台	これまで通り、広島バスセンターまで運行
9時台～ 12時台	「矢賀経由広島バスセンター行き」 →「小河原車庫～イオンモール広島府中」 小河原車庫からイオンモール広島府中までを1時間に1便、計4便往復
13時台～ 15時台	「矢賀経由広島バスセンター行き」 →「大須三丁目行き」 小河原車庫から府中町大須三丁目（サンリブ府中付近）までを1時間に1便、計3便往復

現行



改正



令和8年度予定事業

広島中島線（五月ヶ丘団地入口）交差点改良工事

渋滞緩和策として【ショートカット右折レーン】を設置します。

東区 広島市議会議員・ひろしま清風会

森 畠 秀 治

〒732-0033 広島市東区温品五丁目2-19 岩本ビル201
TEL／082-289-2356 FAX／082-847-4411

主なプロフィール

- 広島市監査委員
- ひろしま清風会 幹事長
- 安心社会づくり対策特別委員会 委員長
- 消防上下水道委員会 委員長
- 文教委員会 委員長
- 建設委員会 委員長
- 経済観光・環境委員会 委員長
- 広報委員会 委員長
- 政令指定都市議員連絡協議会 副幹事長
- 広島市ベタク協会 会長
- 社会福祉法人 理事
- 広島菊友会 参与
- 学区体育協会 顧問
- 広島南年金協会福地区協議会 顧問 など

■ホームページ <https://www.moribatake.jp>

■Facebook <https://www.facebook.com/moribatake.shuji>



『里親支援センター』の設置について

「里親支援センター」とは…

虐待等の事情により家庭で育てることが困難な子どもを、家庭と同様の環境で養育する、いわゆる「家庭教育」を推進するため里親等を増やすとともに、質の高い里親養育等の実現を目指して、里親制度に関する業務を包括的に行う。

具体的には、里親制度の普及促進をはじめ、

里親登録者の開拓、子どもと里親とのマッチング、里親への研修、家庭訪問などによる養育環境の把握、悩み事に寄り添う伴走支援、里親同士の交流機会の提供、さらには里親委託が解除された後の子どもの自立に向けた支援など、里親委託の開始前から委託解除後のアフターケアまで、一貫した体制で継続的に支援を行う。



「私の考え」

さまざまな事情により家庭を離れざるを得ない子ども達にとって、最も切実な願いは、特別なものではありません。「安心して眠れる場所があること」、「自分の帰りを待ってくれる人がいること」。そのあたりまえの日常こそが、何よりも大切です。

そして、その日常を支えているのが里親の

皆様です。こどもの心のケア、実の親との関係調整、学校や関係機関との連携など、里親としての使命感だけでは支えきれない重責を担っておられます。こどもを孤立させない社会を目指すのであれば、里親をも孤立させてはなりません。こどもを迎え入れた里親が、不安や負担を一人で抱え込まずに済む社会をつくること。「里親支援センター」はそのための仕組みです。形だけの拠点に終わらせることなく、実効性のある支援体制として整えていく必要があります。



「SNS 24時間子ども・若者相談窓口」とは…

多感な時期にある子ども・若者が、その抱える悩みや不安等へ誰にも相談できず、必要な支援を受けることができないまま、非行やいじめ、ひきこもり、自殺につながるなど、事態が悪化しないうような相談体制の強化を図るため、新たに設置する。

相談窓口の設置にあたっては、小学生から

30歳未満の若者を対象に実施したアンケートにおいて、約6割がLINEなどのSNSであれば相談しやすいと回答していることを踏まえ、SNSを活用することになった。

相談窓口は、公認心理士などの有資格者等が、24時間365日即時対応。また、自殺リスクや暴力等で身体に危険が及んでいるなど、緊急を要すると判断される場合は、警察や児童相談所等に通報するなど適切に対応する。



「私の考え」

誰にも相談できないまま、追い詰められてしまう。その状況を防ぐことが、この事業の本質です。本事業は、孤立を防ぐ最後の砦になり得る取り組みです。

しかしながら、相談が同時に複数入った場合のバックアップ体制は十分か。緊急対応が必要なケースにおいて、SNS上のやり取りから、どのように実際の支援につなげるのか。警察・児童相談所・医療機関等との連携フローは具体的に確立されているのか。

のか。また、匿名性の高いSNS相談において、本人の同意が得られない場合や居場所が特定できない場合でも、命を守る対応は可能なのか。

本事業は、設置することが目的ではなく、成果を出すことが目的です。こども・若者の声に真正面から向き合う自治体であることを、本事業で示していくべきです。実効性のある取り組みとなるよう、引き続き注視してまいります。

『高陽地区へのスマートインターチェンジ』設置について

高陽スマートインターチェンジは、地域からの要望を受け、約10年にわたる検討を経て新規事業化が決定された。整備により、高速道路へのアクセス時間は大幅に短縮され、交通の分散による渋滞緩和や、北部地域全体の利便性向上が期待されている。

また、防災面では、山陽自動車道との連携強化により、救援活動や物資輸送の迅速化など、広域的な防災機能の向上にも寄与するとされている。

今後は、地域説明を重ねながら、関係機関と連携し事業を進めていく。



「私の考え」

本事業は、交通便利性の向上だけでなく、防災力の強化や地域活性化にもつながる重要な取り組みです。

一方で、その効果を十分に発揮するためには、アクセス道路の整備や運用体制の充実が不可欠です。また、時間短縮や利用台数の見込みについても、実態に即した検証を行いながら、過大な期待とならないよう慎重に進める必要があります。さらに、用地取得や地域との合意形成など、今後の事業推進には丁寧な対応が求められます。

本事業は、整備すること自体が目的ではなく、地域に具体的な効果をもたらすことが重要です。地域の声にしっかりと耳を傾けながら、実効性ある事業となるよう、引き続き注視してまいります。

